

長崎県立高等技術専門校

平成二十三年度生 一般入校選考試験問題

国語

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ② 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- ③ 解答用紙には、解答欄以外に受験番号欄があります。受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- ④ 解答は、解答用紙の解答番号に対応した解答欄にマークしなさい。例えば、**30**と表示のある問題に対して「ウ」と解答する場合には、左の記載例を参考にして、解答番号30の解答欄の「ウ」をマークしなさい。
- ⑤ 試験終了後、問題冊子は回収します。

<記載例>

解答番号	解答欄
30	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ

受験番号
番

一 次の各設問に答えなさい。

問一 傍線部の漢字の読みとして最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。解答
番号は ～ 。

(1) 眠気を催す……………

エ ア
も う な が
も よ お
オ イ
さ い き た
さ い
ウ と ば

(2) 朗らかな人柄……………

エ ア
お お
お だ
オ イ
こ ろ う
こ だ
ウ ほ が

(3) 要求を拒む……………

エ ア
は こ ば
は ば
オ イ
の い た
ウ き よ

(4) 惜別の時……………

エ ア
し し ょ う べ つ
し き べ つ
オ イ
せ し ょ く べ つ
せ き べ つ
ウ け つ べ つ

(5) 飛行機に搭乗する……………

エ ア
そ う じ ゅ う
ご う じ ゅ う
オ イ
と う じ ゅ う
せ ん じ ゅ う
ウ ば じ ゅ う

(6) 諸国を行脚する……………

エ ア
ひ き や く
あ ん ぎ や
オ イ
ぎ ょ う し ょ
ま た た び
ウ ほ う ろ う

(7) 力を誇示する……………

エ ア
こ じ
か じ
オ イ
ほ う じ
ぼ う じ
ウ け ん じ

(8) 気丈に振る舞う…… **8**

ア きしょう
エ きじょう
イ けしょう
オ けじょう
ウ きじゅう

(9) 鬼の形相…… **9**

ア ぎようそう
エ ぎようしろう
イ げいしろう
オ げいそう
ウ けいしき

(10) 含蓄に富む表現…… **10**

ア ごんちく
エ ごんかつ
イ がんちく
オ がんかつ
ウ げんちく

問二 傍線部のカタカナにあてはまる漢字として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は **11**、**20**。

(1) 亡父のイシを受け継ぐ…… **11**
(ア) 遺志
イ 意思
ウ 遣志
エ 意志

(2) 恩師にアテた手紙…… **12**
(ア) 当
イ 腕
ウ 椀
エ 宛

(3) カンシユウを守る…… **13**
(ア) 貫集
イ 慣習
ウ 貫習
エ 慣集

(4) 過半数をシめる…… **14**
(ア) 締
イ 閉
ウ 占
エ ト

(5) 入会をススめる…… **15**
(ア) 勧
イ 誘
ウ 進
エ 薦

(6) ケイシヨウを鳴らす…… **16**
(ア) 慶鐘
イ 警唱
ウ 慶賞
エ 警鐘

(7) コウテイ歩合…… **17**
(ア) 公定
イ 行定
ウ 行程
エ 公程

(8) 故人をイタむ…… **18**
(ア) 傷
イ 悼
ウ 卓
エ 託

- (9) 無事セイカンした………
 (ア) 生環 ……
 イ 19 生還
- (10) 身をツツシむ………
 (ア) 勤 ……
 イ 20 謹
- ウ 慎
- エ 包
- ()

問三 次の語の反対語として最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解

答番号は 21 と 25。

- (5) (4) (3) (2) (1)
- 総合……… 21
- 独創……… 22
- 社会……… 23
- 婉曲……… 24
- 左遷……… 25

- (ア) 直接
- (イ) 栄転
- (ウ) 個人
- (エ) 市民
- (オ) 露骨

問四 長崎にゆかりのある次の先品の作者をあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 26 と 30。

- (5) (4) (3) (2) (1)
- 沈黙……… 26
- 最後の息子……… 27
- 解夏……… 28
- 長崎ぶらぶら節……… 29
- 竜馬がゆく……… 30

- (ア) なかにし礼
- (イ) さだまさし
- (ウ) 遠藤周作
- (エ) 伊東静雄
- (オ) 青来有一
- (カ) 市川森一
- (キ) 司馬遼太郎
- (ク) 吉田修一

問五 次のことばの括弧内に当てはまる漢字をあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は ～ 。

- (1) () に衣着せぬ (率直に発言すること)
- (2) () 詰め談判 (相手に激しく迫って圧力を掛けて談判すること)
- (3) () 菜に塩 (しょげている様子)
- (4) () 山の石 (他人のとるに足りない言動も自分の向上の助けとなること)
- (5) () 心の出来 (作り手が満足する出来であること)

ア 他
イ 高
ウ 会
エ 美
オ 多
カ 歯
キ 膝
ク 青

問六 次のことばの意味として最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

解答番号は ～ 。

- (1) 虎の子 ……
- (2) 雀の涙 ……
- (3) まな板の鯉 ……
- (4) 鶉の目鷹の目 ……
- (5) 烏合の衆 ……

ア 熱心に物を探し出そうとする様子
イ 非常にかわいそうな様子
ウ 客観的で正しい見方
エ 非常に騒がしい集まり
オ 大切にして手もとから離さないもの
カ 相手のなすがままに覚悟をきめること
キ ほんのわずかしかないもの
ク まとまりのない集まり

私は物を始める前の、或いは物の始まる前の、ぴんと張りつめた気持が好きである。物を始めると言ったが、それは何でもいい。例えば私はこの頃、何となく毛筆で字が書きたくなる。そこで硯すずりに向って墨を磨する。墨の匂いが次第に立ちこめて来ると、それだけで何とも言えぬ心の安らぎと、同時に精神のAを感じる。いざ墨が磨すりあがって手習いを始めれば、思っていた半分もうまくいかないから、だんだんに厭いやになるが、これは直前に私の持っていた精神の集注*がそのまま持続しなかったことの証拠であろう。(ア)

下手ついでに、私は暇を見つけて水彩、油絵などを試みることもあるが、そういう時も、画用紙、カンヴァスを前にして、絵具をチューブから出したり、筆の穂先をためしたりしている時が、無性に愉しい。こういう気持は上手下手とは関係がないだろうと思う。私は茶や花にはまったく①暗いくが、これから茶を喫する前の一瞬、これから花を届けようとして花瓶に相對する一瞬は、恐らくそのあとの行為に匹敵するだけの緊張を必要としているのだろう。物を始める前の短い時間には、推量すれば、昔の武士が真剣勝負で、やあとばかり相手に切りつける前のエネルギーと同じものを含んでいるのかもしれない。その沈黙の中に、この勝負の成功不成功が懸かかっている、ひとつ間違えば反対に切られてこの世とお別れになるだろうし、私の場合には、②そこに精神の集注がない限り③ろくな字も書けずまたろくな絵も描けないのである。(イ)

物が始まる場合にも同じことが言えそうである。例えば、私は芝居の幕の上る前のざわざわした空気とか、ベルが鳴り終わって、映画館の中がすうっと暗くなる瞬間が好きだ。といっても、私は芝居や映画に大して出掛けるわけではない。なにしろ期待したほどに実物が面白いことは稀だし、始まる前の雰囲気を楽しむためだけに、入場料を払うのは馬鹿げている。この心理は、せっかく見に来た以上これから見せられるものはきつと面白い筈だという、一種の自己暗示のせいである。その点、音楽会にまさるものはない。特にオーケストラの楽士たちがそれぞれ勿体ぶって楽器の調子を確かめているのを、見たり聞いたりしていると、私はきつとわくわくして来る。肝心のそのあとの演奏よりもその方が気に入るくらいである。私はレコードを掛けて一人で聴くのも好きだがレコードの場合に一番物足りないのは、演奏直前のこの雰囲気欠けていることである。Bこれは私の勝手な言い分で、せっかくの名曲の前にヴァイオリンがきいきい軋きんだのでは、そんなレコードは売れはしないだろう。(ウ)

物の始まる前の「物」とは、要するに向うから与えられるものであり、こちら側に期待を生じさせるその効能が大きければ大きい程、私たちは④自己暗示、もしくは自己催眠にかかりやすい。これは程度を越すと期待不安症となり、いざ始まるまではどうにも落ちつかないという病的な症状を惹き起す恐れもある。高いお金を出して音楽会の前売切符を買っておくと、当日の夕方にお腹が痛くなるという類いである。ぜひ見ようと思うテレヴィの番組の時間になると、たまたまお客が来るという不運もある。「物」とはままならぬものである。(エ)これに反して、物を始めると言う時の「物」は、私ひとりに関わるので、相

手とはまるで関係がない。お腹が痛くなったり客が来たりすれば、ただ延期すれば足りる。私は字を書いたり絵を描いたりするような、ごく趣味的なことばかり言ったが、すべて仕事を始める前の心の緊張は、嬉しいものだしまた当然愉しくあつてしかるべきである。なぜならそこにはこれからする行為へのエネルギーが一種の潜在的な状態として蓄積されている筈なのだから。女性の場合には（これは想像だが）お掃除の前とかお料理の前とかに、そうした気持があるだろうと思う。もしなければ、⑤そのお掃除は完全ではなく、そのお料理はきつとあまりおいしくはないんじゃないやありませんかね。と偉そうなことを言っても、仕事というのは実は辛いもので、趣味とは異なるから、私なんかも小説を書こうと思つて原稿用紙をひろげたまま、いつまでも「始める前」の愉しさばかり味わっていることが多い。度を越すと、その愉しさが一週間も十日も続く。従つて「物」を始める前の気持というのは、ごく短い時間に限るので、短ければ短いほど値打ちがあるとも言えそうである。

（福永武彦『始める前』）

*集注：集中と同じ

問一 右の文章を三つの段落に分けるとすると、第二段落はどこまでか。最も適切な箇所を文中のA、Bの中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

41。

問二 空欄 B に入る最も適切な言葉をあとから一つ選び、記号で答えなさい。

い。解答番号は 42。

(ア) しかし (イ) そして (ウ) また (エ) もっとも ()

問三 空欄 A に入る最も適切な言葉をあとから一つ選び、記号で答えなさい。

い。解答番号は 43。

(ア) 集注 (イ) 拡散 (ウ) 弛緩 (エ) 緊張 ()

問四 傍線部①・③の意味として最も適当な言葉をあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は ・ 。

① 「暗い」 ……

ア 興味がない
イ 知識がない
ウ 性に合わない
エ 向いていない

③ 「ろくな」 ……

ア 上手な
イ 人並みの
ウ 下手な
エ 満足すべき

問五 傍線部②「そこ」とはどこを指しているか。最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 。

ア 沈黙

イ 真剣勝負

ウ 物を始める前の短い時間

エ 水彩、油絵などを試みることに

問六 傍線部④「自己暗示、もしくは自己催眠」の内容の説明として最も適当なものをおとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 。

ア 自分はずばらしい作品ができる

イ これから見せられるものはきつと面白い筈だ

ウ 物が始まる前の瞬間が好きである

エ 今から精神の集注が必要である

問七

傍線部⑤「そのお掃除は完全ではなく、そのお料理はきつとあまりおいしくはないんじゃないか」の理由について、最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 48。

ア 「愉しむ」という気持ちがないと、行為へのエネルギーが生まれな
いから

イ 仕事を始める前の心の緊張には、行為へのエネルギーが蓄積されて
いるから

ウ 仕事を始める前の愉しみばかりに心が奪われ、仕事に集中できない
から

エ 仕事を「愉しむ」気持ちばかりで、仕事の成果に対する自覚が足り
ないから

【三】次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。なお本文中の「奨励会」とは、プロ棋士の養成機関で、もし二十六歳までにプロになれるれば退会しなければならず、プロになる夢は断たれてしまう。今「僕」はその状況にある。解答番号は ～ 。

ある夜、父も兄たちも帰りが早く、久しぶりに一家で夕食をとっていた。二階でうたた寝していた僕は、ぼさぼさの髪のまま下に降りて、遅れて食卓についた。そのとたん、長兄が爆発した。

「おいショウ！ おまえいつまで してるんだ！」
はじまった、と思った。

「もう将棋はダメだったんだよ！ 気持ちを切り替えないとダメなんだよ！ 何かやりたいいことを見つけて、自分で動き出せよ！ おまえ、いくつだと思ってるんだ。うちだって、いつまでもおまえにぶらぶらされてたら困るんだよ！」

いつにもまして、長兄の怒りは激しかった。僕はひたすら、①嵐が通り過ぎるのを待った。

父は、何もいわなかった。母は、ときどきうなずきながら聞いていた。次兄は、ただ食べ物をお口に運んでいた。

「本当に、このままじゃ許さないからな！」

最後にそう言い捨てて、長兄は自室に引き上げた。

残った四人は、無言のまま食事を終えた。僕は心の傷口に塩を塗られたようなつらさを感じていた。

長兄が言うことは ほどわかった。子ども三人を育ててきた家計は決して楽ではなかった。上の二人が就職してやつと②一息ついたが、父は定年も近い。いつまでも僕が働かずにいられる余裕はないはずだった。

しかし、どうしても何かをする気力が起きない。心も体も、石になったようななんの意欲も湧かないのだ。僕はまた、将棋を恨んだ。

「おい、ショウ」

父が、あらたまった声でいった。③僕は唇を噛んだ。奨励会にいた頃、父は決して僕に小言めいたことはいわなかった。いつも黙って見守ってくれた。その父がいま、何かをいわせることが、父の気持ち④無にしてしまったようであつた。誰より⑤父が、僕を叱らざるをえないことを悲しんでいるはずだった。

うつむいている僕に、父はいった。

「ゆっくり休め」

⑥僕は思わず父の顔を見た。

「おまえは本当に奨励会でがんばった。どんなに大変だったか、父さんはわかっているつもりだ。敦司は責任感が強いからああいつてるけど、なに父さんだってまだ働けるんだ。当分はおまえが稼がなくなつてほしいようぶさ。だから心配しないで、しばらく休め。これからのことは、そのあとゆっくり考えればいい」

無口な父がこんなに話すのを見たことがなかった。母も、次兄も、じつと聞いていた。

⑦僕は、胸が苦しくてたまらなくなった。

ふだんは息子たちに何もいわない父がたつたひとつ、言いつづけたのが ということだった。就職を控えた次兄が、いくつか内定をもらって迷っているときも、父はこういった。

問三 傍線部①のような修辭法(表現技巧)を何と言うか。最も適當なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 53。

- (ア 倒置法 イ 直喩法 ウ 隱喩法 エ 擬人法)

問四 傍線部③「僕は唇を噛んだ」とあるが、その時の「僕」の心情として最も適當なものを一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 54。

- (ア 父に対して不満な気持ち イ 父に対して怒っている気持ち
ウ 父に対してあわれむ気持ち エ 父に対して申し訳ない気持ち)

問五 傍線部⑤「父が、僕を叱らざるをえない」と考えられる理由として最も適當なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 55。

- (ア 一家の主として他の家族の手前もあり無視できないから
イ 一家の主として「僕」を始め家族に威厳を示したかったから
ウ 一家の主として遊んでいる「僕」に心底怒っているから
エ 一家の主としてこれ以上家計を圧迫されるのは困るから)

問六 傍線部⑥「僕は思わず父の顔を見た」とあるが、この時の「僕」の心情の説明として最も適當なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 56。

- (ア 意外な父の言葉にあきれはてている
イ 意外な父の言葉に驚きと信じ難い気持ちをいだいている
ウ 予想通りの父の言葉に感謝の気持ちを禁じえないでいる
エ 予想通りの父の言葉に失望とあきらめを感じている)

問七 傍線部⑦「僕は、胸が苦しくてたまらなくなった」の説明として最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 57。

- ア 母や次兄にも言いたいことはいっぱいあるのに、それを我慢して父の長い話に耐えている二人への思い
- イ 無口な父がいつになく長い話をするのを聞いて、父の健康や体調を思いやり危惧している
- ウ 父の思いやりのある言葉に感謝しつつ、その父の優しさに応えることのできない自分を責めている
- エ 父の優しさや長兄の厳しい教え、更に母と次兄の理解に感謝し、ただただ感動している

問八 空欄 C に入れるのに最も適当なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 58。

- ア 社会の役に立つ仕事をせよ
- イ 自分の好きな道を進め
- ウ がんばり続けることはない
- エ 疲れたらゆっくり休みなさい